

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【四半期会計期間】 第38期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時 機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安 部 一 夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安 部 一 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第2四半期 連結累計期間		第38期 第2四半期 連結累計期間		第37期	
	自	平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自	平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自	平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(千円)	8,745,048		8,705,788		17,272,601
経常利益	(千円)	234,900		388,450		424,254
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	326,102		231,089		375,213
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	328,300		232,305		384,922
純資産額	(千円)	5,719,075		6,007,105		5,775,020
総資産額	(千円)	14,039,947		13,679,928		14,080,823
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	15.24		10.80		17.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	40.7		43.9		41.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	134,737		243,773		388,868
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	56,508		66,775		367,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,344,579		418,153		1,539,175
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,785,260		1,914,241		2,155,396

回次	第37期 第2四半期 連結会計期間		第38期 第2四半期 連結会計期間	
	自	平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自	平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	0.96		6.42

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による景気対策を背景とした企業収益改善や雇用情勢の改善がみられるものの、個人消費の回復は依然として弱く、また中国をはじめとした海外経済の減速等、先行きの見通しは不透明な状況となっております。

外食市場は、原材料価格の高騰及び人手不足のトレンドが続いていることもあり、依然として厳しい競争状態にあります。

このような状況の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

また、成長戦略を実現するために、既存店舗の大規模改装に積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高87億5百万円（対前年同期比0.4%減）、営業利益4億円（対前年同期比8.7%増）、経常利益3億88百万円（対前年同期比65.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億31百万円（対前年同期比29.1%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は195店舗であります。内訳は直営156店舗、暖簾6店舗、F C 33店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「がぶりっ！BBQフェア」、「お父さんありがとうフェア」、「アイルー村のご馳走フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや「ヨーグルトのセミフレッド」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は74億94百万円（対前年同期比0.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は5億79百万円（対前年同期比8.2%増）となりました。

#### 七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「黒毛和牛 稀少部位食べ比べフェア」、「行楽焼肉フェア」、「ホルモン食べ比べ祭」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや「台湾かき氷」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は10億45百万円（対前年同期比2.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）は1億5百万円（対前年同期比17.3%減）となりました。

#### その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営3店舗、暖簾1店舗、FC6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「AGRICO(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は1億66百万円(対前年同期比24.2%減)となり、セグメント利益(営業利益)は10百万円(前年同期はセグメント損失1百万円)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ4億円減少し、136億79百万円となりました。これは、借入金の返済等による現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ6億32百万円減少し、76億72百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ2億32百万円増加し、60億7百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

#### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、2億41百万円減少し、19億14百万円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上3億70百万円、法人税等の支払額1億56百万円等により2億43百万円の収入となりました。前年同期と比べ1億9百万円(対前年同期比80.9%)の収入の増加となりました。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入2億円、敷金及び保証金の回収による収入48百万円、有形固定資産の取得による支出2億96百万円等により66百万円の支出となりました。前年同期は56百万円の収入でありました。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入2億66百万円、長期借入金の返済による支出5億44百万円等により4億18百万円の支出となりました。前年同期と比べ9億26百万円(対前年同期比68.9%)の支出の減少となりました。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	21,504,347	21,504,347		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	2,400	11.16
柳 時 機	さいたま市浦和区	1,710	7.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	1,001	4.65
株式会社北与野エステート	さいたま市中央区上落合二丁目3 5	648	3.01
柳 允	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 詠 守	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 京	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 先	文京区小日向	559	2.60
柳 朱 理	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 俊 勲	さいたま市浦和区	459	2.13
柳 允 寿	さいたま市浦和区	459	2.13
計	-	9,479	44.08

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 115,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,236,000	21,236	
単元未満株式	普通株式 153,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,236	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式616株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	115,000		115,000	0.54
計		115,000		115,000	0.54

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (管理本部長)	常務取締役 (財務経理部長)	安部 一夫	平成27年 8月 1日
取締役 (開発本部長)	取締役 (総務人事部長)	本多 英明	平成27年 8月 1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,356,412	1,915,256
受取手形及び売掛金	336,222	301,144
商品及び製品	134,071	142,165
仕掛品	1,235	678
原材料及び貯蔵品	560,924	535,255
前払費用	198,917	201,237
繰延税金資産	86,055	76,303
その他	47,250	64,597
流動資産合計	3,721,089	3,236,639
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,128,890	2,246,135
機械装置及び運搬具（純額）	39,872	57,259
工具、器具及び備品（純額）	155,286	160,598
土地	4,984,367	4,984,367
リース資産（純額）	155,636	157,757
建設仮勘定		8,549
有形固定資産合計	7,464,053	7,614,668
無形固定資産	102,954	110,732
投資その他の資産		
投資有価証券	96,951	98,742
長期貸付金	826,480	812,192
長期前払費用	23,057	20,625
繰延税金資産	76,793	72,155
敷金及び保証金	2,453,313	2,400,270
その他	51,411	48,825
貸倒引当金	735,280	734,922
投資その他の資産合計	2,792,725	2,717,888
固定資産合計	10,359,733	10,443,288
資産合計	14,080,823	13,679,928

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	497,604	467,987
短期借入金	862,172	519,420
リース債務	47,067	49,501
割賦未払金	77,080	80,396
未払金	231,306	229,896
設備関係未払金	25,207	46,183
未払費用	479,018	459,762
未払法人税等	180,892	166,472
未払消費税等	212,562	102,135
賞与引当金	85,450	87,590
転貸損失引当金	13,297	7,537
その他	464,370	367,065
流動負債合計	3,176,029	2,583,949
固定負債		
長期借入金	4,115,000	4,099,166
リース債務	126,910	125,204
長期割賦未払金	206,738	182,653
繰延税金負債	119,293	109,266
役員退職慰労引当金	298,404	312,280
転貸損失引当金	55,518	46,921
退職給付に係る負債	134,872	135,927
その他	73,034	77,454
固定負債合計	5,129,772	5,088,873
負債合計	8,305,802	7,672,822
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	118,258	349,347
自己株式	68,830	69,051
株主資本合計	5,769,074	5,999,942
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,946	7,162
その他の包括利益累計額合計	5,946	7,162
純資産合計	5,775,020	6,007,105
負債純資産合計	14,080,823	13,679,928

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	8,745,048	8,705,788
売上原価	3,092,145	3,125,640
売上総利益	5,652,903	5,580,148
販売費及び一般管理費	1 5,284,366	1 5,179,625
営業利益	368,536	400,522
営業外収益		
受取利息	15,765	15,138
受取配当金	1,067	1,116
受取地代家賃	5,293	5,163
貸倒引当金戻入額	343	358
その他	21,904	17,758
営業外収益合計	44,374	39,534
営業外費用		
支払利息	68,291	47,045
支払手数料	100,000	
その他	9,720	4,561
営業外費用合計	178,011	51,607
経常利益	234,900	388,450
特別利益		
固定資産売却益		1,050
転貸損失引当金戻入額		8,189
受取保険金	3,924	216
債務免除益	361,663	
特別利益合計	365,587	9,455
特別損失		
固定資産売却損	2,593	
固定資産除却損	144	12,688
減損損失	21,858	5,202
賃貸借契約解約損	8,247	9,722
特別損失合計	32,842	27,612
税金等調整前四半期純利益	567,645	370,292
法人税、住民税及び事業税	234,590	135,414
法人税等調整額	6,952	3,788
法人税等合計	241,542	139,202
四半期純利益	326,102	231,089
親会社株主に帰属する四半期純利益	326,102	231,089

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	326,102	231,089
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,198	1,216
その他の包括利益合計	2,198	1,216
四半期包括利益	328,300	232,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	328,300	232,305

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	567,645	370,292
減価償却費	189,583	210,671
減損損失	21,858	5,202
貸倒引当金の増減額(は減少)	343	358
賞与引当金の増減額(は減少)	340	2,140
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,687	13,875
転貸損失引当金の増減額(は減少)	1,608	14,357
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	125	1,055
受取利息及び受取配当金	16,833	16,254
支払利息	68,291	47,045
固定資産売却損益(は益)	2,593	1,050
受取保険金	3,924	216
債務免除益	361,663	
固定資産除却損	144	12,688
賃貸借契約解約損	8,247	9,722
売上債権の増減額(は増加)	65,238	35,077
たな卸資産の増減額(は増加)	122,883	18,131
前渡金の増減額(は増加)	1,558	1,744
仕入債務の増減額(は減少)	10,450	29,616
未払金の増減額(は減少)	10,262	1,409
未払消費税等の増減額(は減少)	53,401	110,427
未払費用の増減額(は減少)	43,199	19,828
預り金の増減額(は減少)	78,143	62,520
前受収益の増減額(は減少)	30,450	28,850
その他	38,982	6,589
小計	362,409	432,679
利息及び配当金の受取額	15,710	15,281
利息の支払額	65,711	47,344
保険金の受取額	3,924	216
店舗閉鎖に伴う支払額	2,256	675
法人税等の支払額	179,339	156,384
営業活動によるキャッシュ・フロー	134,737	243,773

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入		200,000
有形固定資産の取得による支出	103,779	296,570
有形固定資産の売却による収入	75,610	1,050
有形固定資産の除却による支出		5,800
無形固定資産の取得による支出	14,359	21,660
投資有価証券の取得による支出	9,966	
敷金及び保証金の差入による支出	1,420	
敷金及び保証金の回収による収入	98,450	48,000
預り保証金の受入による収入		4,420
貸付金の回収による収入	2,487	2,516
投資その他の資産の増減額（は増加）	9,485	1,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	56,508	66,775
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,223,798	80,000
長期借入れによる収入	5,135,000	266,000
長期借入金の返済による支出	5,218,031	544,586
割賦債務の返済による支出	17,138	36,153
リース債務の返済による支出	14,288	23,193
自己株式の取得による支出	282	220
その他	6,040	
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,344,579	418,153
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,153,333	241,155
現金及び現金同等物の期首残高	2,938,593	2,155,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,785,260	1 1,914,241

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
(会計方針の変更)	
「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。	

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
減価償却費	165,090千円	185,546千円
賞与引当金繰入額	66,184千円	71,824千円
退職給付費用	7,372千円	8,795千円
役員退職慰労引当金繰入額	7,687千円	13,875千円
給料手当	2,506,324千円	2,466,818千円
地代家賃	980,602千円	961,857千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金	1,786,275千円	1,915,256千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,015千円	1,015千円
現金及び現金同等物	1,785,260千円	1,914,241千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,456,818	1,069,032	219,196	8,745,048	8,745,048		8,745,048
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,456,818	1,069,032	219,196	8,745,048	8,745,048		8,745,048
セグメント利益又は 損失( )	536,031	127,496	1,152	662,375	662,375	293,838	368,536

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては21,858千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。



当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,494,641	1,045,005	166,142	8,705,788	8,705,788		8,705,788
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,494,641	1,045,005	166,142	8,705,788	8,705,788		8,705,788
セグメント利益	579,910	105,484	10,838	696,234	696,234	295,711	400,522

(注) 1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,202千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	15円24銭	10円80銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	326,102	231,089
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	326,102	231,089
普通株式の期中平均株式数(株)	21,391,108	21,388,884

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

株式会社 安楽亭  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 木村 直人 印

業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。